

資料 = 授業記録『やまなし』(宮沢賢治)

望月善次(教育学部国語科)
(1987年1月20日受理)

Yoshitsugu MOCHIZUKI

A Record of Classroom Observation
—Theme: Yamanashi by Kenji Miyazawa—

昭和61年度において、報告者の属する本学部国語科並びに附属小・中学校国語科は「教育方法等改善経費」によるプロジェクトの結成が可能になった。研究の具体的対象は「やまなし」(宮沢賢治)である。また、その結果は、全国国語教育実践研究会(岩手)との協力のもとに、『実践国語教育研究』誌の特集号として発表予定である。[「宮沢賢治『やまなし』の教材研究と全授業記録』]

ところで、上記雑誌特集号に発表される全記録は、吉丸蓉子教諭(岩手大学教育学部附属小教諭)によるものであるが、その関連授業として、吉丸教諭のものとは別に報告者による「やまなし」の授業も1時間行われた。本報告は、その授業の報告をし、広義の「全記録」にも応えようとするものである。許されたスペースとの関係から、報告は、授業における授業者と生徒達のやりとりの記録等の最小範囲に止まることになる。¹⁾

[キーワード] 国語教育, 文学教育, 授業研究, 発問研究

- I 授業日時: 昭和61年11月26日(水)第3時限
II 授業学級: 岩手大学教育学部附属小学校吉丸蓉子学級
III 吉丸教諭の「やまなし」授業との関連: 吉丸教諭の10時間目と11時間目との間。
IV 学習指導案²⁾
- e) 「擬態語(擬音語)」の濁音・半濁音構造 → C-24)
f) 賢治の「擬態語」考察 → C-17) 及び 26) の分離
g) 授業時間を守る → 進度に関わらずプラス・マイナス3分以内で纏める。

A, 授業者=望月善次(岩手大学教育学部)

B, 授業目標

a) 全員で行う授業(多くの生徒が作業や発言を行うことができるか。指名はできれば普段余り発言しない生徒を中心としたい。 → C-9)

b) 文章中への戻し → C-3), 4) など。

c) 「繰り返し強調」と「擬音・擬態語」との区別 → C-2), 13)

d) 「擬音語」・「擬態語」の区別 → C-18)

C, (「発問」的) 授業展開案<留意点>

1) (自己紹介=板書して)「岩手大学の望月です。皆さんと吉丸先生との熱心な勉強振りを見せてもらっていましたが、是非、皆さんと勉強したくなりました。勿論、吉丸先生のように上手にはできません。授業のやり方も普段と少し違うかも知れませんが、この一時間つきあってもらえるかな。」

2) (導入)「じゃ、早速今日の勉強に入ります。」

*〔「トブン」と「サラサラ」とを板書して〕

「まず、全員で読みましょう。」

3) 「この二つは、『やまなし』の中にも出てくるのですが、何処に出てくるか探せますか。」→確認+全員読み

4) 「さて、今皆に出てくるところを読んでもらった『トブン』と『サラサラ』ですが、この二つについて、同じ点と違う点とを探してもらいたいと思います。」

同じ点 → 片仮名, 「十二月」, 音……

違う点 → 文字数, 音節数, 「サラ/サラ」は同じ言葉(音)を重ねている。

5) (学習課題の提示)「実はね、今日は『サラサラ』のような同じ音を重ねていることば、についての勉強をしたいと思います。」→〔板書〕「同じ音を重ねていることば」

6) 「最初に『やまなし』の中から同じ音を重ねていることばを探してもらいます。*探し方はこれから配る用紙のようにしてもらいます。」

7) 〔用紙配付の後, 説明〕

「同じ音を重ねていることばを探したら、それを抜き出して書き、下に括弧をつけてページをつけてください。『サラサラ』(15)のようになります。同じものが、何回も出てくる場合は、その度に数字のみを加えてください。『サラサラ』(15, 17)のようになります。同じページに2度出てくる時は、その数字を2回書いてください。『サラサラ』(15, 15)のようになります。」

8) 〔*4列ずつに分ける〕「時間の都合がありますから、こちらの4列は、『五月』の方から同じ音を重ねていることばを探してもらいます。こちらの4列には『十二月』の中から探してもらいます。時間は、きっかり5分で、合図をしたら始めてもらいます。途中でも5分たったら終わりにします。尚、時間の余る人は自分達以外の部分をやっても構いません。」→課題確認

9) 「それからね、誰か前に出てやってもらいます。」→〈福田君と佐藤君指名〉

〔「五月」, 「十二月」の四角を作る〕

10) 〔4分後指示, 5分後打ち切り〕確認

「五月」=「かぶかぶ」(4, 4, 5), 「つぶつぶ」(5, 5, 9), 「ぼつぼつぼつ」(5), 「ゆらゆら」(7, 11), 「くちゃくちゃ」(7), 「ぎらぎら」(8), 「ぶるぶる」(9)。

「十二月」=「ねろねろ」(13), 「きらきら」(14), 「よくよく」(14), 「ぼかぼか」(15), 「サラサラ」(15), 「もかもか」(15), 「いよいよ」(15, 16), 「待て待て」(16), 「ゆらゆら」(16)。

11) 補充

12) 全員読み。→文章に戻して

13) 「さて、今読んでもらったものの中には半分でも意味の通じるものが含まれています。*先生が、半分だけを読みますから、半分でも意味が通じると思う時は、手を挙げてください。」→下線の3語

14) *(「いよいよ」の除外)「実はね、皆が片方だけでは意味の通じないと言った『いよいよ』も元々は『いよ』というのを重ねたことばです。現在では「いよ」と片方だけで使うことはないのですが、今日は一応その仲間だということにしておきます。」

15) 「今の4語は、片方だけでも意味が通じるのにどうして2回繰り返しているんだろうね。」→「繰り返し強調」〈出なければ余り深追いせず説明する〉

16) (残りの再確認)「では、残ったものをもう一度全員で読みます。」

17) 「今、読んでもらった語の意味を確認したいと思います。最初に意味の分からない語を確認めます。今、読んでもらった語の中には、賢治の造語のようなのもあって先生にも意味のよく分からないのがあります。ですから、遠慮なく手を挙げてください。」→一語ずつ確認〔*賢治造語=「かぶかぶ」, 「つぶつぶ」, 「ぼつぼつぼつ」, 「ぼかぼか」, 「もかもか」〕

18) 「さて今、意味を確かめたような同じ音を重ねていることばは次の二つの意味を指す場合が大部分です。『音にできるだけ近く表そうとしたことば』と『ものの様子とを表そうとしたことば』です。それぞれ『擬音(声)語』『擬態語』と言います。〔板書、『擬音(声)語』=音・声、『擬態語』=様子〕

『くるくる回る』の『くるくる』、『ふらふら歩く』の『ふらふら』は『擬態語』で、『ことこと鳴る』の『ことこと』、『がらがら回る』の『がらがら』は擬音語です。*この二つの区別はなかなか難しいのですが、『という音(声)をたてて』と入れておかしくない時は、『擬音語』、ちょっと変だな、と思う時は『擬態語』としていいと思います。

尚、『擬音語』は『擬声語』ともいいます。〕〔板書、『擬音(声)語』=音・声、『擬態語』=様子〕

「先程も言いましたように、この二つの区別はなかなか難しいのですが、先程読んだ語はそれぞれどちらだと思いますか。これから一つずつやっていきますから挙手してください。『という音(声)をたてて』と入れてみて、音(声)のように思えるかどうかが判断のポイントです。音のように思えるか、音には思えないか、どちらとも言えない、の三つのうちの一つに挙手してください。』

19) 〔一語ずつ確認〕

20) 〔整理=〕「皆さんの意見はこうでしたね。実は、このことばは音を表しているかどうかについて確かめる方法があります。ヒントは、この時間の最初にやった『サラサラ』です。違いに気がついた人はいますか。」

21) (原理をさぐる=「法則化」)「そうですね、音を表すことばである『擬音語』は、現在の教科書などでは片仮名で表すことになっているのですね。だから、今日やった同じ音を重ねていることばの大部分は、『擬音語』と『擬態語』のうちのどちらということになりますか。」

22) 「次に、『五月』と『十二月』との比較に移りたいと思います。両方ともにある『擬態語』が一つあります。それは何ですか。」→「ゆらゆら」

23) 「『五月』と『十二月』とに、ほとんど同じようなものがあります。それは何と何でしょう。」→「きらきら」と「ぎらぎら」

24) (原理をさぐる=「法則化」)「二つはどこが違うのですか。」→濁点の有無

25) 「濁点のついたものと、つかないものとは或る程度意味が近いのですが、二つを比較するとどちらかが、意味がより強いと言われています。皆さんの感じを教えてください。→全員挙手確認の後何人かに感じを聞く。時間があれば、『ぐちゃぐちゃ』と『くちゃくちゃ』。

26) 「では、最後に先程やった、賢治の造語だと言われている『擬態語』について考えてみましょう。『かぶかぶ』、『つぶつぶ』、『ぼつぼつぼつ』、『ぼかぼか』、『もかもか』の五つでしたね。」→『ぼかぼか』中心

27) *(まとめ=プラス・マイナス3分以内)「今日のまとめをします。」「繰り返し強調」と「擬音・擬態語」との区別。「擬音語」・「擬態語」の区別。「擬態語(擬音語)」の濁音・半濁音構造、賢治の「擬態語」考察について出来たものの纏めを行う。〕

<当日配付資料=生徒用>

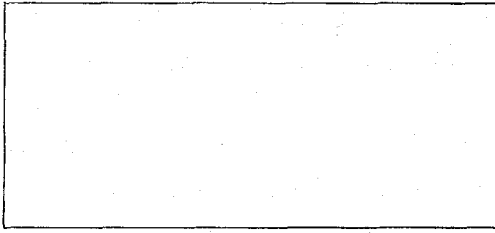
同じ音を重ねていることば

*例にならって探しましょう。

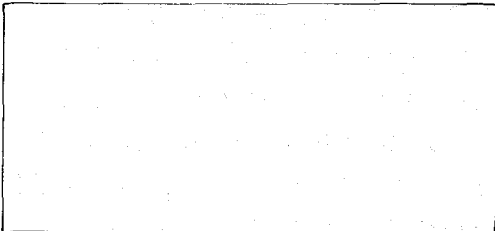
「サラサラ」(15) * ()の中の数字はページ。同じ語が、複数ある場合は、そのページ数を「サラサラ」(15, 17)のように全て書く。また、同じページに二つある場合は「サラサラ」(15, 15)のようにその数字を2回書く。

「五月」

「五月」



「十二月」



V 授業の実際³⁾

C₁ [当番の生徒] これから、「国語」の授業を
始めます。

C₂ [全員] はい。

C₃ [全員] お願いします。

T₁ お願いします。

T₂ 吉丸先生から聞いているかも知れませんが、
毎時間顔を出していました岩手大学の「望月」
と板書しながら「字がうまくないんだよね。字
を余り書きたくないんですが、⁴⁾望月って言うん
ですけれども、吉丸先生のようにうまくできな
いんですけれど一時間付き合ってもらいたいと
思います。

C₄ はい。

T₃ それではね、字を余り書きたくないんですけ
れど、そうも言っていられないので字を書いて
[「トブン」「サラサラ」と板書] 最初はこれ
から行きますので。

C₅ 先生、教科書違う。「トブン」じゃなくて、
「ドブン」だよ。

T₄ 教科書は何ですか。あっ、そうね。

C₆ えっ、「トブン」だよ。「トブン」でいいん
だよ。

T₅ ちょっと、待って。確認しますね。

C₇ 「トブン」でいいんだよ。

T₆ 今、誰が言ってくれたんだっけ。

C₈ 「トブン」だよ。

T₇ 違う、違う。そうじゃなくて、今言ってくれ
たでしょ。先生もちょっと自信がなかったのが
よく分かってすごくよかったです。どうもあり
がとう。⁵⁾ ハイ、行きましょう。

すごくいいんだよね。言ってくれるの。はい、
じゃ、これ、ちょっと読みましょう。

C₉ 「トブン」「サラサラ」

T₈ もう一回読もうかな。

C₁₀ 「トブン」「さらさら」

T₉ さっき、教科書の話が出たけど何処に出て
るか分かった？

C₁₁ [挙手] はい。

T₁₀ 「トブン」の方から探してよ。みんな、探し
てね。分からない人がいたら隣の人が教えてあ
げてよ。いいかな、分かった？

C₁₂ [挙手]

T₁₁ 教雄君のところ分かった？ [頷く] 分かった
ね。みんな、何ページにあった？

C₁₃ 14 ページ。

T₁₂ 14 ページね。じゃ、そこのところをね、みん
なで読みましょう、「トブン」からね、「金の
ぶちが光りました。」というところまでね。各
自のペースでいいですから、各自で読みましょ
う。⁶⁾

「その時、トブン」——声出してね。ハイ。

C₁₄ [音読] < 3分経過 >

T₁₃ いいね。じゃ、今度「サラサラ」っていうと
ころ確かめてみて。

C₁₅ [挙手]

T₁₄ 二人ペアで、若し隣の人が分からなかったら
教えてあげてください。いいですか。何ページ
に出ているかな。

C₁₆ [殆ど全員挙手] 15 ページ。

T₁₅ じゃ、その 15 ページから、終わりから 4 行目

の「まもなく」というところから最後まで読んでください。ハイ、どうぞ。

C₁₇〔音読〕

T₁₆ みんな、一人ずつ読むのが非常にうまいね。多くのクラスね、先生、色々な所に行って授業させてもらっただけど、みんなが一つになって（しまって）棒読みみたいになるんだけど、みんなは一人一人きちんと読んでいて非常にいいですね。

それでね、「トブン」というのと「サラサラ」というので、同じのところと違うところがあるんです。それでね、〔「同じ」と板書しながら〕「同じ」という字はもうやっているんでしょうか。もうやったんだったらゴメンね。同じところと、〔「違う」と板書しながら〕違うという字はどうだっけ？ さっき英語みたいだと誉めてもらったんだけど、字を見てね。冗談はさておき、まず、同じところを探しましょう。どんなところでもいいですから。じゃ、これは、教え合い無しにしましょう。

C₁₈〔挙手〕

T₁₇ それじゃ、桜小路さんから行こうか。

C₁₉ どちらも「音」を表している言葉です。

T₁₈ 「音」を表しているのに気がついた人？

C₂₀〔挙手、多数〕

T₁₉ 多いね。どちらも「音」を表しているね。

「付け足し」ある人？

C₂₁〔数人挙手〕

T₂₀ 先にじゃ、板垣さんに行こうか。

C₂₂ 同じ「音」なんですけど、同じ水の音です。

C₂₃ 同じです。〈6分経過〉

T₂₁ 水の音ね。先生気付かなかった。今の「付け足し」（と手を挙げた人）の中で、同じ水の音だと〔同じ考えの者は挙手するべく、授業者も挙手しながら〕同じ人？

C₂₄〔挙手〕

T₂₂ はい、「トブン」も「さらさら」も水の音だね。他に。健太郎君。

C₂₅ 当たり前のことだけど片仮名です。

T₂₃ 気付いた人？

C₂₆〔挙手〕

T₂₄ 健太郎君、当たり前だって言ったけど当たり前のことに気付くことが大変なんだよね。この片仮名だってことが、すごく大切だっていうことがやがて分かってくると思います。他にどうだろうか？ あるかな？

じゃ、うん。そうだ。「やまなし」のことからやろうか。みんながやっているのは、〔「五月」と「十二月」とを板書〕こういう対比をやっているよね。この対比で言えばどうだろう？

C₂₇〔「あっ」という声〕

T₂₅ 「五月」と「十二月」に分ければ、どちらの……。すごく単純な……。

C₂₈ どちらも、「十二月」に出てくる。

T₂₆ 「トブン」と「さらさら」ね。今同じところやったけど、違うところはどうでしょうか？ 和彦君に行こうか。⁷⁾

C₂₉ 「トブン」というのは何秒かすれば終わってしまうんだけど「さらさら」というのはずっと続いている音です。

T₂₇ なるほど。時間が違うんだね。時間の長さが違うんだね。「トブン」というのは、すぐ終わっちゃうんだけど、「さらさら」というのは、時間の長さがあるのね。他に。じゃ、智子さん。〈9分経過〉

C₃₀ 「トブン」というのは重い感じがして、「さらさら」というのは軽い感じがします。

T₂₈ そうか、感じが違うんだね。「重い」と「軽い」。

C₃₁〔「付け足し」の声〕

T₂₉ ちょっと、待ってね。和彦君が言ったように時間の長さが違うと思った人？⁸⁾

C₃₂〔確認、挙手無し〕

T₃₀ これはいなかったかな。

智子さんの「重い感じ、軽い感じ」というのは？

C₃₃〔挙手多数〕

T₃₁これはいるね。

他の点に行こう。「付け足し」じゃ無い点？
じゃ、米川君行こう。

C₃₄「サラサラ」は同じ文字が二つで、「トブン」は一つ。

T₃₂ここに気付いた人？ 「サラサラ」っていうのは同じのが二つで「トブン」は一つ。気付いた人？

C₃₅〔挙手無し〕

T₃₃じゃ、米川君に言われて分かったっていう人いる？

C₃₆〔挙手、ほぼ全員〕

T₃₄分かった。

じゃ、あと一つに限る。あと一つ、どうしても言いたって言う人いる？

C₃₇どうしても、言いたい。

T₃₅じゃ、圭君。

C₃₈「トブン」というのは、物が落ちた時に起こる音なんだけれども、「サラサラ」っていうのは何か流れた時の音で、何ていうのか、「トブン」の方は何かによって立てられた音なんだけれども「サラサラ」っていうのは川が自分から立てている音だと思います。

T₃₆こっちは立てられた音ね。こっちは立てている音って、そう言うのね。

まだあると思うんだけど、これで打ち切りますけれども、（皆から出なかったので）簡単な教えてあげようか、一つだけね。「トブン」っていうのは、〔「字が三つ」の音がする〕そうそう字が三つ、音が三つ、「サラサラ」っていうのは、字が四つ、音が三つ〔四つの誤り〕そういうものもある。

それでね、今日はこれを使ってどういうことをやるかという、米川君の説におんぶして、後の勉強をしたいと思います。「サラサラ」っていうのは同じのが二つあるでしょ。その同じのが二つ重なっている言葉を今日は皆に探して

もらってそれで勉強してみようと思います。探し方なんですけれども、〈12分経過〉こういう用紙〔「学習指導案」（当日の配付資料）参照〕を配りますからこれによってやってもらいたいと思います。〔資料を配付しながら〕枚数はどうかな？ 探し方はこれから説明しますから、先ず……。余りませんか。

C₃₉これは、教科書から探すんですか。

T₃₇そうなんです。探し方はこれから説明しますから。あと、余る人いませんか。

C₄₀〔余った資料を前に戻す〕

T₃₈それじゃ入る前に探し方を説明しますから、それを聞いてやってください。

一つは、基本的には、米川君から出ましたように、何でも同じ言葉が二つとか三つとか重なった言葉を全部挙げてください。

ちょっと、全部やっている時間はありませんから分けますので、〔クラスを二分しながら〕この列からこっちは「五月」をやってください。小原さんのところかな？ 元（はじめ）君からこっちは「十二月」をやってください。じゃ、時間は5分で「始め」って言ったらやってください。「はじめ」って（言うのは）はじめ君じゃないよ。

C₄₁〔笑い〕

T₃₉それでね、（それぞれのグループから）一人はね。皆がやっている間に来てね、それぞれのところから一人は来てね、書いてください。やり方は同じなんですけれども、言葉を「サラサラ」で言いますと、「サラサラ」っていうのを書いたら、15ページにあったね。だから、括弧して「(15)」って書いてください、下に。若し、「サラサラ」っていうのが15ページの中に2回出てきたら「サラサラ(15・15)」って書いてください。15ページと17ページに出てきたら「(15・17)」って書いてください。そうやって書き抜いてもらいますけれど、そうだね。代表二人を出したいと思います。

(代表にやってもらう前に) 先ず四角を書こうかな。〔白で書いた四角の枠を書き直しながら〕青がいいね。〔書きながら〕吉丸先生のようにきれいに書けないだよ。 <15分経過>

「五月」で「十二月」ね。枠の中に入りきらなくてもいいんですけどね。

やってみようっていう人いますか?

C₄₂〔挙手〕

T₄₀ よし、「五月」の方は福田君をお願いします。それから、「十二月」の方は佐藤君をお願いします。⁹⁾

C₄₃〔笑い〕¹⁰⁾

T₄₁ 福田君と佐藤君ここに出て。やり方、分かる? 代表だから、よく聞いた方がいいよ。〔佐藤君に向かって〕書き抜いてページを入れると。福田君も分かりますか? じゃあね、福田君と佐藤君が前に出て来たら、先生が「始め」と言いますから、それから5分間やりますから。じゃあ、前に出てきてください。〔二人出て来る〕言葉だけです。その二つ重なった言葉だけ抜き書きしてください。

C₄₄ 先生、平仮名で二つ繋がっているのですか。

T₄₂ そうです。〔下線部分が聞きとれていないので不適切な指示となっている。〕とにかく、何でも二つ繋がっていれば。三つでもいいんです。

C₄₅ 何でも?

T₄₃ とにかく、二つ以上繋がっていれば。

C₄₆ 三つでもいいんですか。

T₄₄ 三つでもいいんです。とにかく、二つ以上繋がっているもの。

やり方で質問ありますか。隣の人と相談するのは構いません。いい? じゃあ、始めますよ。はい、始め。

〔机間巡視しながら〕どんなものでも、二つ重なっていればいいんです。

「きらきら」というのの〔何処までを抜き出すのかの〕質問が出ましたので、それは「きらきら」まで。〔福田・佐藤の両君と話し合う〕

<18分経過>

〔作業進行の早そうな子供がいるので〕自信があるなら両方やってもいいんです。同じものは何でもいいですよ。とにかく同じであれば。

〔机間巡視しながら、「いい、いい」はどうかという生徒がいる〕うん、同じだね。入れましょう、入れましょう。先生気付かなかった、それは。気がつかなかったけれど入れましょう。性質はちょっと違うけど、「いい、いい」っていうの同じだよ。繰り返したよね。先生気がつきませんでしたけど。

C₄₇ 先生、じゃ、「ああ、いい」っていうの「ああ」ってのは違うんですか。

C₄₈ 何で「ああ」がそうだよ。

T₄₅ じゃあ、あと1分だね。〔時計を見ながら〕さあ、後10秒ぐらいかな。4,3,2,1,止め。

じゃあ、黒板の人とも止めてください、いいですか。そこまでいいです。これはね、最初から言いましたように時間的には、ちょっと難しいよね。五分ですから。みんな出来た人はいないと思いますけど。

こういう拾う時は全員で拾えばいいんですから。

福田君と佐藤君がやってくれたやつに付け加えて行くことにしましょう。

じゃあ、先ず、「五月」の方から行きましょうね。福田君に読んでもらおうかな。拾いあげた言葉を読んでください。言葉だけでいいですから。

C₄₉ 「かぶかぶ」、「つぶつぶ」、「ぼつぼつ」。

T₄₆ 〔復唱した後〕三つね。その次は?

C₅₀ 「ぼつぼつ」、「くちゃくちゃ」、「きらきら」。〔「きらきら」を言い直して〕「ぎらぎら」。

T₄₇ どちらだっけ?

C₅₁ 「ぎらぎら」。

T₄₈ 「ぎらぎら」ね。「五月」の方で、もっとありますか。

C₅₂ [「はい」の声]

T₄₉ じゃ、福田君(が)済んでから行こう。はい、福田君。

C₅₃ 「くちゃくちゃ」の前に「ゆらゆら」。

T₅₀ 「ゆらゆら」ね。これ何ページですか?

C₅₄ 7ページ。

T₅₁ これが7ページね。〔「ゆらゆら」を指しながら〕これは、何処にある?

C₅₅ 9ページと10ページ。

T₅₂ [復唱]

C₅₆ 11ページ。

T₅₃ 11ページね、こんなにあったの。

C₅₇ 10ページ(は)ない。

T₅₄ えっ〔10ページを消す〕

T₅₅ ついでだけどさ。〔板書しながら〕どっちだと思う、「じゅっページ」、「じっページ」?

「じゅっページ」がいいと思う人?〔確認〕

「じっページ」がいいと思う人?〔確認〕

C₅₈ [「前にやった」の声]

T₅₆ 前に習った?〔「じっページ」を指しながら〕こっちなんだね。でも、NHKは今どっちでもいいって言ってるよ。〔「じゅっページ」を指しながら〕NHKのアナウンサーこう発音するでしょ。〔「じっページ」を指しながら〕でも本当はこっちな。

えーと、7,9,11,ね。はい、ごめんね福田君。

C₅₉ 「つぶつぶ」が9ページ。

T₅₇ 9ページにもあるのね。はい、これでいいかな。

C₆₀ 「ぶるぶる」

T₅₈ 「ぶるぶる」は、何ページなの。

C₆₁ 9ページ。

T₅₉ これでいいね。これ以外あるかな? ちょっと、待って、____さん。〔音声不明〕

C₆₂ 「いい、いい」っていうのが10ページにあります。

T₆₀ 他にどうですか。ページの付け足しありますか? ページの付け足し? どうぞ。じゃ、薫

さんに行こうか。

C₆₃ 「つぶつぶ」のところが5ページ。

T₆₁ 5ページ、もう一つあるのね。

C₆₄ あと「ぼくぼく」が4ページ。

T₆₂ 「十二月」(グループ)の方から見て落ちているところない? 「十二月」グループ。

〔「五月」について板書したものを全て復唱する〕「かぶかぶ」、「つぶつぶ」、「ぼつぼつぼつ」、「くちゃくちゃ」、「ぎらぎら」、「ゆらゆら」、「ぶるぶる」、「いい、いい」。いいかな?

それじゃ「十二月」の方に行くよ。佐藤君読んでください。

C₆₅ 「ねろねろ」、「きらきら」、「よくよく」、「ほかほか」、「もかもか」、「まてまて」。

T₆₃ 付け加えるのある? はい、どうぞ。

C₆₆ 「いよいよ」と「ゆらゆら」。

T₆₄ ページも言ってもらおうかな。

C₆₇ 「いよいよ」も「ゆらゆら」も両方16ページ。

T₆₅ [復唱]

C₆₈ 「いよいよ」、15もある。

C₆₉ [復唱]

T₆₆ 「十二月」グループ、付け加えないですか。いい?

〔「いい、いい」を指しながら〕先生見落としたの、これでしたね。自分で調べたのにね。確かに、これ重なっているんだよね。(だから)やっぱりこういうのは皆でやるといいよね。一人でやるとどうしても落ちますから皆でやるといいですね。

この中でね、半分にしてもね。これ、みんな言葉が二つずつ繋がっているでしょ。〈27分経過〉 その中で、一つだけ一つだけでも意味が通じるものと、そうじゃないのがあるのね。だから、それぞれ聞いて行きますけれど、意味が通じると思うものには、一つだけでも通じると思うものには手を挙げてください。

どういう時、手を挙げるか分かった？

C₇₀〔生徒達頷く〕

T₆₇じゃあ、これから行こうかな。はい、「かぶ」。

C₇₁「かぶ」はちょっと……。

T₆₈「つぶ」はどうですか。

C₇₂うん、使う。〔「えっ、使わないよ。」の声も〕。

T₆₉〔4.5人挙手しようかどうかを迷っているのを真似しながら〕4.5人、こんなになっているね。これは通じるか通じないかっていうのにはちょっと、ズレがあるんだよね。人によって。そのズレるところがいいんだよね。「ぼつ」はどうですか？

C₇₃「ぼつ？」……。一個ぬかして「ぼつぼつ」となると……。

T₇₀一つだけだよ、一つだけ。いない？ いや、一つだけでも通じるっていう人？

C₇₄〔挙手なし〕

T₇₁じゃ、これは通じないと。「くちゃ」？

C₇₅〔挙手なし〕。

T₇₂「ぎら」はどうですか。

C₇₆先生、「ぎらっ」ていうの、通じると思います。

C₇₇小さい「つ」を付けると通じる。「ぎらっ」でも「ぼつっ」でも……。

T₇₃小さい「つ」は付けない、ここでは。それは、ちょっと違う問題になってくるから。(通じると)そう思う人手を挙げてみて。
〔挙手なし〕

T₇₄「ゆら」はどうですか。

C₇₈〔挙手なし〕

T₇₅「ぶる」はどうですか。

C₇₉ブルドッグみたいだ……。

T₇₆そう「ぶる」ってブルドッグのことも言うね。ブルドーザーとかね。

T₇₇「いい」はどうですか。

C₈₀いい！

T₇₈「いい」は通じないっていう人いる？

C₈₁〔挙手なし〕

T₇₉じゃ、これは、全員(通じるだ)ね。「ねろ」？

C₈₂通じる。

T₈₀どう思うかって自分のあれだからね。〔いかにも、まずい。〕自分で、はっきり挙げて。廻りの人を見て合わせても、廻りの人が間違っていることもあるからね。自分で挙げるんだよ。
「きら」はどうですか。〈30分経過〉
〔発言して生徒の名を挙げながら〕田高さんが、田高説だね。通じるんでしょ。
「よく」はどうですか。

C₈₃〔挙手多数〕

T₈₁「よく」は、ちょっと通じないと思う人？

C₈₄これは、じゃあ、大君説だな。「ほか」はどうですか。

C₈₅〔挙手殆どなし。「殴る音みたいだ」の吹きも〕

T₈₂「さら」はどうですか。

C₈₆〔挙手なし〕

T₈₃通じない？

C₈₇〔挙手なし〕

T₈₄「もか」はどうですか。

C₈₈コーヒーにある。

T₈₅コーヒーにあるよね。「まで」はどうですか。

C₈₉うん、いい。

T₈₆そうだね。「待て」だね。「いよ」はどうですか。

C₉₀〔挙手なし〕

T₈₇「ゆら」はもういいんだね。

C₉₁「ゆら」はもういいんだ。

T₈₈先ず問題のやつは、「いい」、「ねろ」、「まで」だね。一つでも意味が通じるんだね。どうして二回言ってるんだらう。なぜ二回言っているだらう。じゃ、教雄君行こうか。

C₉₂二つ重ねることによって意味が強調されている。

T₈₉他に。「付け足し」する？ じゃ、下川原さん。

C₉₃ 強調してるっていうのと、本当に言いたっていうか、一回だと、一回よりも、言いたっていう感じで、例えば「寝ろ」っていう時に「寝ろ寝ろ」って言えば、本当に寝て欲しいっていうか、寝なさいっていう感じだから、二回言っていると思います。

T₉₀ お母さんに言われるか。あまり夜更ししてるね。

まあ、それは(一先ず置くとして)きっとあると思いますけれど、繰り返すことによって強調されるんだね。すごく、単純なあれだけど、同じ方法で、テレビのコマーシャルなんかで同じやつ二回流すでしょう。あれ、あまり賢い方法と思わないけど、[笑い]そうすると印象が強くなる。ここは、そういうような意味だね。

<33分経過>

〔「五月」の枠の中の「いよ」を指しながら〕本当はね、ここの中のこれもそういう意味なんだけどね。「いよ」って言葉が昔あってね、「いよ」一つだけで通じたんです。現在では「いよいよ」って使いますけどね、今は(「いよ」だけでは)言いませんけど。

C₉₄ 「いよ、青白い」って。

T₉₀ 今日は、或いはこの後あまり出来ないかも知れませんが、こういう言葉は先ず違うんだよ、ということを勉強しましょう。もともと、一つでも通じたんだよ、ということです。

一つではね、ちょっと他の意見もあったんですけど、ちょっと、これはね、ここに出てくる言葉はね、通じない言葉ってのがあってね。さっきの「サラサラ」っていうのは音を表すって言ったでしょ。音を表すか、音に非常に近い様子を表すか、どちらかの言葉なんだよね。

音を表すことばってやったんだろうか、もう。擬態語とか擬音語とかいうのやった? やってない。さっきの「サラサラ」のような音を表すやつをね。

〔「擬」と書きながら〕擬人の「擬」って習

ったんだね。じゃあ、この字読めるね。「擬音語」もしくは「擬声語」。

だから、その時は、「という音を立てて」というふうにやるといいんです。意味が通じるんです。擬音語の場合は、音を表すんだね、音を表して。

どうやって見分けるかっていうと、「という音を立てて」、(「音」のところは)「声」でもいいんですけど、「音を立てて」って入れて意味が通じるんなら擬音語、又は擬声語なんですね。

だから、「サラサラと音を立てて」って言えるでしょ。そういうのが、音のところに入るかどうか、皆でやってみてください。難しいのがありますけれど。

一つ一つやってみようか。

「かぶかぶと音を立てて」って言えると思う人?

C₉₅ [挙手なし]

T₉₁ 言えるっていう人いない? じゃ、これ、パス。「つぶつぶ」っていうのは? <36分経過>

C₉₆ 「つぶつぶと音をたてて」と言える。

C₉₇ 言えない。

T₉₂ 言えない? 普通、言えない方はね、「様子」っていうことです。本当かどうかかわかんないよ、確かめてみなさいと。

様子を表すんでこちらの方は「擬態語」って言うんだね。〔「態度」の態って書いて〕「態度」の「態」ってやっているんだろうか?

C₉₈ はい。

T₉₃ 「擬態語」って言うんです。

「ぼつぼつぼつ」はどうですか。「ぼつぼつぼつと音を立てて。」いいと思う人?

C₉₉ [半数ちょっとが挙手]

T₉₄ 菊池君どうだ? 「ぼつぼつぼつ」は、今言える? ここは言えるって人が多かったね。

「くちゃくちゃ」?

C₁₀₀ 別の意味なら。

T₉₅ 勿論、この「やまなし」の中でね。言えない？「きらきら」はどうですか？「きらきら」はどうですか。

C₁₀₁ [挙手なし]

T₉₆ 「きらきら」は言えない。「ゆらゆら」は？

C₁₀₂ [挙手なし]

T₉₇ [×印をつけながら。*以下挙手の数により×印、○印をつける]「ぶるぶる」は？

C₁₀₃ [挙手なし]

T₉₈ 「きらきら」？

C₁₀₄ [挙手なし]

T₉₉ 「ほかほか」、言えると思う人？

C₁₀₅ [挙手多数、「えー」という声もあり]

T₁₀₀ 「サラサラ」？

C₁₉₆ [全員近く挙手]

T₁₀₁ これは当選確実だな。「もかもか」？

C₁₀₇ [挙手なし]

T₁₀₂ 言えないね。「ゆらゆら」やったよね。

[まとめながら]皆ね、皆でやってこうなったんだよね。「かぶかぶ」駄目。「つぶつぶ」駄目。「ぼつぼつ」言える。「ぐちゃぐちゃ」駄目。「きらきら」駄目。「ゆらゆら」駄目。「ぶるぶる」駄目。駄目ってというのは、これは[「擬音語」のこと]入らないってことですよ。だから、様子を表す。

それから「きらきら」駄目。「ほかほか」丸。「サラサラ」二重丸。「もかもか」駄目。「ゆらゆら」と。こういう風になっていますね。これはね、実はね、どちらかってのを見分ける方法があるんですよ。少なくとも、この教科書を作った人はどちらって考えたか、見分ける方法があるんです。<39分経過>

[板書を指しながら]これを睨んで考えて下さい。「音」か、「音」じゃないか見分ける方法があるんです。ちゃんと見分けられる方法があるんです。ちゃんと見分けられるように書いたんです、音か様子か。

C₁₀₈ [考え込む]

T₁₀₃ ヒント言うよ、ヒント。当選確実だっていうのは何だっけ？

C₁₀₉ 「サラサラ」

T₁₀₄ 「サラサラ」ってところ睨んでさ、他と違う点ないか睨んでください。

C₁₁₀ 片仮名。

T₁₀₅ 気がついたという人、手を上げて。

C₁₁₂ [挙手多数]

T₁₀₆ 大坊君早かったな。じゃあ、大坊君行こう。

C₁₁₃ 「サラサラ」だけ片仮名で他のは漢字とか平仮名です。

T₁₀₇ 同じという人？

C₁₁₄ [大多数挙手]

T₁₀₈ 実はそうなんですね。教科書を作った人はね、教科書を作った人は「音」のところは片仮名で書くという約束になっているんです。

本当は難しいんですよ。時間があれば「ぼつぼつぼつ」のところは本当に音でないか皆と一緒に考えてみたいんですけどね。「かぶかぶ」だって同じですよ。

本当は難しいですよ。だけど、教科書を作った人はどうも音じゃないなって読んだんですね。証拠は平仮名で書いてあるからです。

C₁₁₄ じゃ、「ほかほか」は？

T₁₀₉ そうなんだね。「ほかほか」は皆は、「音」説が強かったね。だけど、教科書を作った人は一応、「ほかほか」は音じゃないと見たんだね。本当は音か、音じゃないかって凄く難しいんだよね。音になるか音にならないかって凄く難しいんだよね。¹¹⁾そういうことが一般的には言えるんです。

今日はもう時間になりますから、今日のまとめをしますと、一つはね、音を表す言葉っていうのは、「サラサラ」っていうふうに片仮名で書いてあるんだね。今の教科書の約束ですね。

<42分経過>

これ、昔の本なんか違いますよ。宮沢賢治の頃はそんな約束はありませんから、宮沢賢治が

もともと書いた原稿を見ますとそんなふうになってませんよ。今の教科書の約束では、そうになっている。¹²⁾ そういうのを、そういう方は擬声語・擬音語と言って、それ以外のものは擬態語と。

あと、同じ言葉が重なっていても片方だけで意味が通じるものと、「寝ろ寝ろ」、「待て待て」とか片方だけで意味の通じるものと、二つセットになって意味が通じるものがあると、そこをところを勉強したということにしましょう。

本当はもっと沢山のことができるかな、と思ったんですけど先生なかなか慣れませんのでこの程度しか出来ませんでしたけどね、いつも皆が吉丸先生と一生懸命に勉強しているので、非常に感心して是非一度一緒に勉強したいな、と思ってました。今日、一緒に勉強できて、今日は嬉しかったです。じゃ、これで終わります。

C₁₁₅ 気をつけ。これで「国語」の授業を終わります。

C₁₁₆ ありがとうございます。

T₁₁₀ どうも、ありがとう。〈4 3分2 5秒〉

V 授業評価

授業者である報告者自身の授業評価を、「学習指導案-B授業目標」に対応する形で簡単に述べておきたい。

- (1) [N. - a = 全員授業]「C-9」については達成できた。
- (2) [N. - b = 文章への戻り]「C-3~4」については達成できた。
- (3) [N. - c = 「繰り返し強調」と「擬音・擬態語」との区別]達成できた。
- (4) [N. - d = 擬音・擬態語の区別]達成できた。
- (5) [N. - e = 「擬態語(擬音語)」の濁音・半濁音構造]取り扱えなかった。
- (6) [N. - f = 賢治の「擬態語」]取り扱えなかった。

* (5)~(6)から、今回の内容は(報告者の授業力量と「飛び入り」授業という条件のもとでは)1時間で扱うのには無理だと考えられた。今回のような条件のもとでは2時間が適当だとおもわれた。

(7) [N. - g = 授業時間]達成された。但し、(5)~(6)の条件においてである。

[注]

1) つまり、本報告はスペースが許されれば、記すことが望ましい以下の条件に欠けているのである。

① 授業者の内面の記録・授業に対する第三者の批判

② 先行実践・研究との関連。

尚、②については、その欠の一部が、上記特集号によって補われるであろう。

2) 明らかな誤記を正し、符号を本報告の一部として収録するのに相応しい形と直した以外は、当日配付のままである。

3) 岩手大学教育学部附属教育学センター所蔵テープによる。原則的には、テープそのままの記録である。但し、「えーと」などの口癖は省略してある。尚、()は意味の通り易くする為に後刻補った箇所、[]は報告者や生徒達の授業における行動等を示すものである。また、記録中の経過時間は、授業始まりの挨拶の開始された時点を起点としている。

4) 話し言葉として整っていない。以下こうした箇所が続出する。話し言葉と書き言葉との相違を考へてもちょっとひどい。今後の課題の一つである。

5) 処理としては、「ドブン」の形の存在することを明言するという方法もあろう。処理を迷った箇所でもある。

尚、「やまなし」のテキストの校異については、次のものにおいてなされている。

甲斐睦朗「教材研究としての文章論—作品『や

まなし』の分析を中心に——』、『愛知教育大学
研究報告』№25～28（1976～1979）

『校本 宮澤賢治全集』第9巻、11巻（筑摩書
房、1974）。

栗原敦「テキスト評釈『やまなし』、『国文学』
Vol.1, 27 No.3（1982-2）。

中西市次『賢治童話「やまなし」を読む—
川底の心象風景—』（高校生文化研究会、
1982）。

谷川雁『賢治初期童話考』（潮出版、1984）。

報告者達もまた、評価をも含んだ、より完全
な「やまなし」テキストを作らなければなら
ないと考えている。

- 6) 今までの授業に立ち合う機会を与えられて、
このクラスの生徒達が、こうした場合各自のペ
ースで読むことに感心していた。吉丸教諭の日
常的苦心によるものであろう。こうした判断を、
音読後の評価にも反映させている。
- 7) この生徒や、圭君、はじめ君は、このクラス
でもっとも発言する生徒である。授業者として

この生徒達の前に立つと、クラス全体も彼等の
意見を待望していることを実感した。「授業目
標B-a」の基本方針は変えないものの、そ
の適用は緩く行おうと軌道修正した。

- 8) C₂₉に続けて行った方が自然であろう。尚、
C₂₉～C₃₀については、全員に返すことを、第
一義とし、本格的な検討は行わない。
- 9) 二人にやってもらうことは、この授業の最大
の目標の一つである。〔「学習指導案」C-9
参照〕説明も、丁寧に行った。
- 10) 授業が始まる前に、子供達と雑談し、一部の
生徒達の間既に、佐藤君お前やれよ、という
雰囲気があったことによる。
- 11) 時間に余裕があれば、当然具体例を出すべき
ところであろう。
- 12) このことを素材として、色々な学校段階での
授業が可能だと思われる。

* 本授業記録のVTR起しには国語科教育研究室の昭和61年度2～4年次生、就中平野智子氏（2年次
生）の助力によった。記して感謝したい。